

世界の林業状況を見ますと、南米などの熱帯雨林は、20年後には現在の40%程度に減ると言われています。木材が主な外貨獲得の資源だからですが、切ったあと日本が植林の手助けをしてやらないと

「当選おめでとうございませう。当選では「緑と彫刻のある町づくり」を目標に掲げてあります。まず、これからの「緑」をどのように実現されるおつもりですか」

キラズがコヤシ

先日の町長選で、五期目の当選を果たされた六車町長に、これからの四年間、津奈木町のあるべき姿を尋ねた。

香りたい文化で町づくりを
経済発展を支えるために
六車町長「明日」を語る

「キラズがコヤシ」は、伐らないことが木のためになる」といいます。木をふやすための環境づくりを云うのです。



発行所
津奈木公民館
津奈木町
電話(78)311114
印刷所 旭印刷
電話(水俣)4101番



戦後緑のふえた国は、韓国と中国で、施政者の指導によるものといわれます。

「日本は木材輸入の大国ですが、これから思うように入らなくなるでしょう。従って、日本の緑が見えなくなる日も近そうです。」

旧役場一帯の活性化案

「曙橋など三つの橋に彫刻が飾られ、手づくり郷土賞「日本一づくり賞」などの賞を受けた。よそでは、文化で飯を喰っている町もあるが、津奈木のこれからの夢は、おかげさまで、彫刻で津奈木の名をあげ、国からも県からも賞

視野の広い若者の育成を

津奈木の農業や漁業の改革が急がれるが、農民や漁民に勉強してもらわなければならない。日本人は一体に甘えが強く、補助金を欲しがります。自助努力、ハングリー精神が足りないのは、津奈木ばかりではないかもしれないが、他所では補助金を貰わずに成功している人が沢山います。

津奈木の現状を打破するために、もつと付加価値の高い漁業、農業を推進できる、広い知識を持った若者が必要です。一昨年から熊本市で毎年二十人ずつ欧州などへ、二・三週間ほど派遣するようになりました。しか

性化は、ここから始まるといつてもいいでしょう。『郷土史料文化館』は、津奈木の歴史を勉強したり、伝承芸能を消さないで次世代に引き継いでいく所です。今度つくる「文化センター」は、客席二百五十から三百くらいで音響効果のいいホールと図書館を併せ持ち、昔と今を象徴する一帯になります。『文化センター』は、カラオケだけでなく音楽や合唱など演奏できるようなになり、郷土史料館の「民舞室」で練習した郷土芸能の発表も充分できる舞台を持ちます。

旧役場跡に「観光物産センター」の構想が実現すると、ここは名実ともに津奈木の中心地になる筈です。

「砂漠に日は落ちて」とか「宵闇追れば」とか。『なにがなんだかわからないのよ』と「人恋い病」はいよいよつづけるばかりである。

二十一世紀の高齢化社会に向い長寿を保ちいかに余生を生くべきか大きな課題として問われそうである。

これから定年を迎える人は年々増加の一途をたどることとなりま

す。早めに心の準備をして、ゆめゆめ油断めするな。定年、無情「生老病死」は避けて通れない人生の関所、ならば心豊かに楽しい人生を送りたいものです。

独り、自室に籠って、

「砂漠に日は落ちて」とか「宵闇追れば」とか。

「なにがなんだかわからないのよ」と「人恋い病」はいよいよつづけるばかりである。

二十一世紀の高齢化社会に向い長寿を保ちいかに余生を生くべきか大きな課題として問われそうである。

これから定年を迎える人は年々増加の一途をたどることとなりま

す。早めに心の準備をして、ゆめゆめ油断めするな。定年、無情「生老病死」は避けて通れない人生の関所、ならば心豊かに楽しい人生を送りたいものです。

婦人会だより

交通安全母の会杯

ビーチボールバレー大会

七月三十日津奈木連合婦人会主催、交通安全母の会杯ビーチボールバレー大会をB.G.体育館に於て開催。交通安全協会津奈木支部本山会長、岩城駐在所西村さん、赤崎駐在所小山さんが出席され「交通安全は、明るい家庭の話し合いから」と、励ましの挨拶がありました。



たが、出来る人が、出来る事を、出来る時にの合言葉に、この日は汗を流し、体育館が割れんばかりの沸き様でした。優勝は倉谷。婦人会の活動は幅広いのですが、地域に合った活動として、人と人とのふれ合いを大切に、心豊かな明るい家庭作りを、この様な行事を行ってまいります。町の夏祭りにも、おどりに参加させていただきました。八月十九日には、郡バレー大会が開催されます。津奈木連合で参加致します。高令化も進んでおります。長い人生を明るく過すためにも、意欲的に何事にも参加したいものです。(竹本記)

青年団だより

芦北郡総合青年祭

津奈木町連合青年団総合優勝

六月二十三日、男子バスケット、バドミントンの四種目で開催されました。熱戦が繰り広げられた結果、男子バスケットが接戦の末準優勝、女子バスケットが、一セットも相手チームにあたえず大差で優勝。男子バスケットも大差で初優勝。バドミントンが三位でした。総合では「ポイント差で芦北町を下し、津奈木町連合青年団が優勝しました。わが青年団が優勝したのは、昭和四十九年度の総合祭以来の事で、実に十五年ぶり四回目の勝利でした。



初日の13日は、晴天に恵まれ、30度を超す暑さの中、各試合とも熱戦が繰り広げられ、盆野球大会ならではの珍プレー、好プレーが見受けられました。翌14日は、早朝より2週間ぶりの雨が降り、大会進行が危ぶまれたが、朝方には雨もやみ、試合開始時間を二時間遅らせてのプレーボールとなった。



競舟大会

レースは、去る7月24日、大阪で開催された国際ドラゴンカヌーで日本一となった海龍チームの主力である大泊が本命視されていたが、大泊チームは予選で日添に破

▼訂正とおわび
先号(七月一日)岡本秋徳氏稿の見出しに「学校党を支えた陽明学」としましたが、編集者が勝手につけたタイトルでしたので、ここにおわびして削除します。尚「新人物往来社歴史研究員」は「新人物往来社歴史研究会」が正しく併せて訂正いたします。

編集室から

盆恒例の町民体育祭野球大会、競舟大会が、8月13日、15日までの3日間にわたって開催された。この大会では、盆に帰省された方も各地区のチームの一員として参加が認められ、故郷の若い頃の思い出を幼馴染と共に思い起す良い機会なのである。

野球大会は、13、14日の二日間、総合グラウンドにおいて、19地区が参加して行われた。



野球大会

町民体育祭

白熱の闘い

優勝

野球 平国下
競舟 日添

さて、決勝戦では、接戦のすえ勝ち上がった上下門と、連続優勝を目指す平国下との対戦となり、総合力に勝る平国下チームが昨年に引き続き優勝を遂げた。

野球大会

で書いて手から覚え、朗唱してたのしんでいます。」